

令和3年度 学校自己評価のまとめ

総数12名（職員6名 こども環境科3名 介護環境科3名）

4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切

1 教育理念・目標

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の理念・目標育成人材像(専門分野の特性の明確化)	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	こ	1	1	1	0	3.0	
	介	1	2	0	0	3.3	
職業教育の特色の明確化	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	1	1	1	0	3.0	
	介	1	1	1	0	3.0	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	職	3	3	0	0	3.5	3.1
	こ	0	2	0	1	2.3	
	介	1	1	1	0	3.0	
理念・目的・育成人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	職	0	6	0	0	3.0	2.9
	こ	0	2	1	0	2.7	
	介	1	1	1	0	3.0	
各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向付け	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	こ	0	2	1	0	2.7	
	介	1	1	1	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度より僅かに下回ったもののほぼ同数値であり、2項目で前年度を下回り、1項目で上回った。

○5項目の中で「理念・目的・育成人材像・将来構想などの保護者や学生への周知」の評価が低く、課題となっている。充実に向けた取組が必要である。

・評価によって表出した課題と改善策

◎今年度は、入学式を保護者参列で実施したので、保護者説明会(教育理念・目標の周知等)を行うことができ、学校の考え方や思い、保護者の協力依頼等について、各種資料をもとに直に伝えることができた。来年度は、学校案内をリニューアルの予定なので、学校に良さの更なる発信をしていきたい。

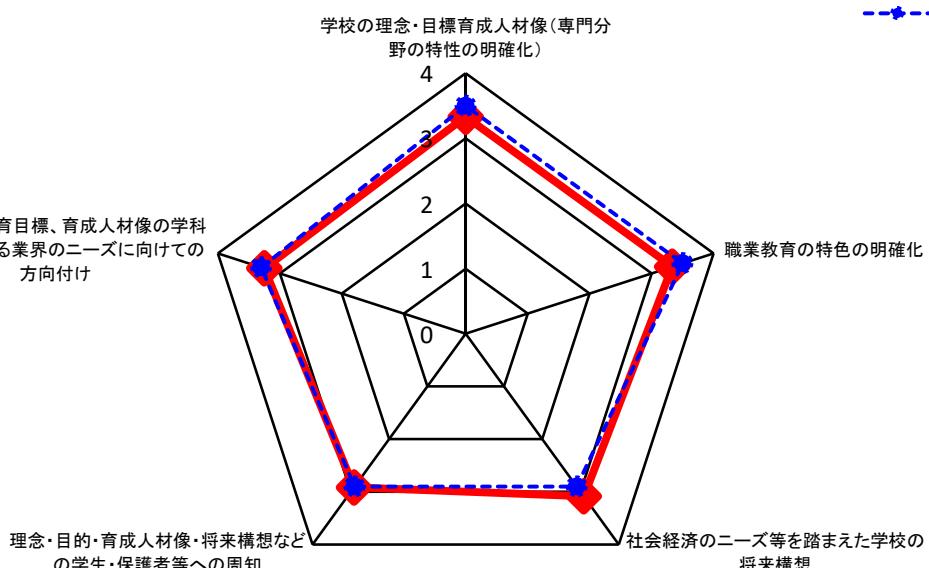
◎教育目標に迫ることは出来るが、学生の意欲を引きあげるのに苦慮するのが現実。目的意識をもった学生が殆どであってほしい。

◎理事長、校長、教員の協議(問題点の洗い出し、改善策の検討等)

◎意識づけしながら、具体的な方策を考え、検討する機会が必要と考える。

各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向付け

■ 令和3年度
■ 令和2年度



2 学校運営

		4	3	2	1	平均	総平均
目的に沿った運営方針の策定	職	2	3	1	0	3.2	3.0
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
運営方針に沿った事業計画の策定	職	2	2	2	0	3.0	2.9
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	職	2	3	1	0	3.2	2.7
	二	0	0	2	1	1.7	
	介	0	2	1	0	2.7	
人事・給与の規定の整備	職	1	3	2	0	2.8	2.8
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	職	2	3	1	0	3.2	3.0
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	職	2	3	1	0	3.2	2.9
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	
教育活動等における情報公開	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	二	0	3	0	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
情報システム化等による業務の効率化	職	1	3	2	0	2.8	2.7
	二	0	0	3	0	2.0	
	介	0	3	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度と同数値であった。4つの項目で前年度を下回っており、上回ったのは3つの項目だった。

○「組織運営・意思決定機能の明確化・有効な機能」と「ティール運営」がいかに有機的に作用しているかが大きな課題。

・評価によって表出した課題と改善策

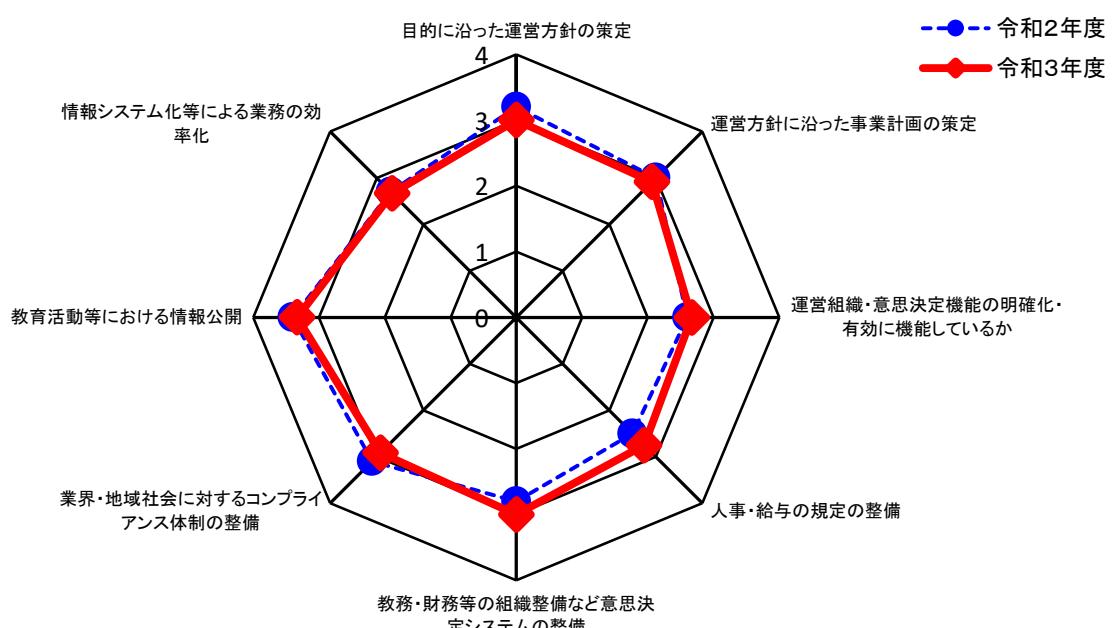
◎ティール運営への取組は確かな理解に立った前進は見られないものの、システム(形)としては職員間に馴染んできたように思える。学生の情報共有を組織として取り組んでいく必要性も共通理解に立つことができる状況となってきたので、来年度は校内研修の充実等を通して相互理解を図りながら充実に向かっていきたい。

◎教育活動に対する財務、業務の効率化が望まれる。

◎意思決定機能が十分に機能していない。→理事会、学校評議員会等をコンスタントに開く
◎セキュリティを整備したPCを各学科に設置する。

◎理事長、校長、教員の協議(問題点の洗い出し、改善策の検討等)

◎職員個々の能力を生かし、効率化が図られるとよいと思うが、現実的に方向性をどうもっていくか、検討が必要と考える。教育環境、学校の位置づけ(役割)に見直しが必要と考える。



3 教育活動

(1) 教育課程

	4	3	2	1	平均	総平均
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	職	5	1	0	0	3.8
	二	1	1	1	0	3.0
	介	1	2	0	0	3.3
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	職	3	3	0	0	3.5
	二	1	1	1	0	3.0
	介	0	2	1	0	2.7
学科等のカリキュラムの体系的編成	職	3	3	0	0	3.5
	二	1	2	0	0	3.3
	介	0	3	0	0	3.0
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	職	2	4	0	0	3.3
	二	0	1	2	0	2.3
	介	0	2	1	0	2.7
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	職	3	2	1	0	3.3
	二	0	3	0	0	3.0
	介	1	1	1	0	3.0
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	職	3	3	0	0	3.5
	二	1	2	0	0	3.3
	介	1	2	0	0	3.3

網掛けは前年度平均

○3つの項目が前年度を下回っており、上がったのは1つの項目だった。総平均値は昨年度より僅かに下回ったもののほぼ同数値であった。

○カリキュラムや教育方法の工夫・開発の評価が低く、取組が求められる。

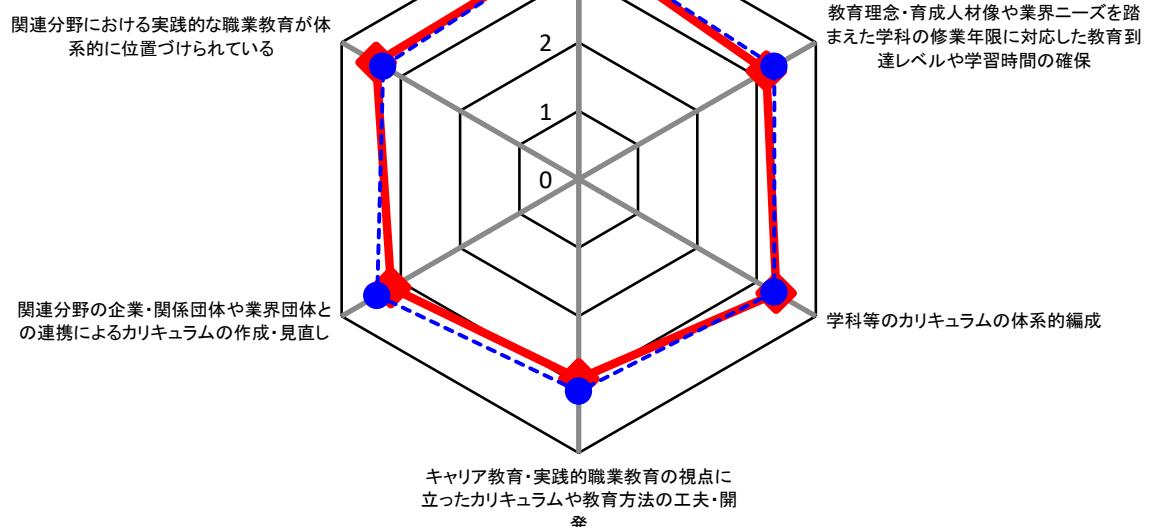
・評価によって表出した課題と改善策

◎企業等との連携を視野に入れたカリキュラム・シラバスは整備されており、コロナ禍の中で、企業等の温かな対応により学習活動を進めることができた。学生にとってより分かりやすい内容となるよう、今後も検討を重ねていきたい。

◎講師による一方向の授業も一部みられ、学生に不評であった→非常勤講師を含めた教育方法の改善を図る。

◎学外の関係者との情報の共有が表にあらわれない。

◎更に地域をまきこむことを踏まえた構想を具体化し、学生の体験を通した学びを充実させていくことで、人材を育成するという目標を地域と密着しすすめていけるのではないかと考える。



(2)指導・評価

		4	3	2	1	平均	総平均
授業評価の実施・評価体制	職	3	3	0	0	3.5	3.4
	二	2	1	0	0	3.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
職業教育に対する外部関係者からの評価	職	5	0	1	0	3.7	3.5
	二	2	1	0	0	3.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化	職	2	4	0	0	3.3	3.0
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	職	3	3	0	0	3.5	3.3
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は昨年度と同数値であり、昨年度を上回った項目、下回った項目は各1項目だった。

○授業(指導)改善に結びつく公開授業及び学生による授業評価の継続するとともに、非常勤講師にもその輪を広げたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎今年度は年度当初に「講師会議」を開催し、学校の考え方や思いを直に講師に伝えることができ、また講師からの声も受け止めることができた。

専任講師全員の公開授業及び学生による授業評価を継続実施することができたことは良かったと思う。

今年度から、非常勤講師の協力により公開授業を実施することができた。取組をより広げていきたい。

成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化については、校内研修の充実を図る中で取り組んでいきたい。

◎外部関係者との情報交換をより密にする必要がある。

◎授業の担当教員がつけようとする評価(期待する到達度)と学生が達成しうる度合いのギャップ。

授業評価の実施・評価体制
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ
職業教育に対する外部関係者からの評価

● 令和3年度
● 令和2年度

成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準の明確化

(3)教員・研修

		4	3	2	1	平均	総平均
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	二	0	0	3	0	2.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
関連分野の業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	職	3	2	1	0	3.3	3.0
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	
関連分野における先進的知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組み	職	1	4	1	0	3.0	3.0
	二	1	1	1	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	
職員の能力開発のための研修等の実施	職	0	4	2	0	2.7	2.8
	二	1	1	1	0	3.0	
	介	0	3	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント上がっており、3つの項目で前年度を上回り、下回った項目はない。

○専門的な知識・実践を持つ外部講師による職員研修会(学生理解)を継続実施することにより、年々学びが深まっている。また、ここ2年間は講師が本校非常勤講師ということもあり、日常的にアドバイスをいただいている。それに基づき、学校としての学生理解・関わり方の力量を高めていくことが必要である。

○今年度は、昨年度に引き続きコロナ禍の中にあって各関係機関の研修が中止となるなど、研修機会の減少があったが、オンライン開催による研修も増えたことにより、参加の機会も増となった。引き続き、専任教員個々の能力を伸ばす研修機会の確保(経済的援助等)が求められる。

・評価によって表出した課題と改善策

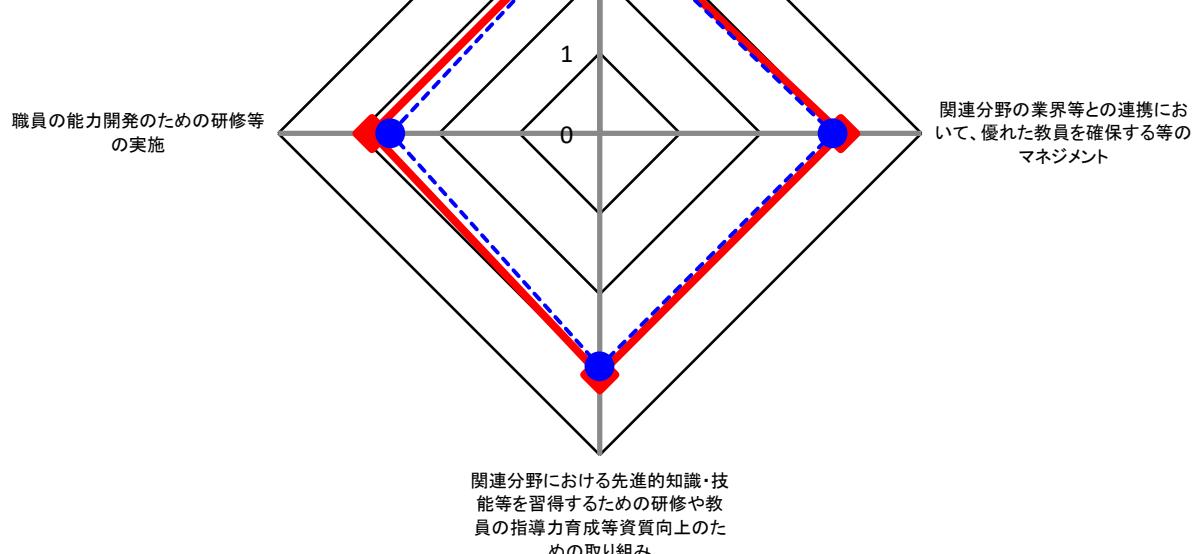
◎全職員を対象とした外部講師による「学生理解」のための研修を4年連続で行うことができた。この2年間は、本校非常勤講師による研修で、日常的に学生・教職員に関わっていただいていることもあり、組織として学生理解・支援に取り組む必要性の理解も深まっている。次年度以降も継続して実施していきたい。また、研究紀要の発刊による本校取組の積極的な発信についても継続していきたい。

◎忙しさのために研修の機会が少なくなる。

◎療育の専門的事項を担える教員、できれば中堅教員の確保。

◎現場を知る教員の確保が難しい→待遇などの改善。

◎常勤職員の増員。



4 学修成果

		4	3	2	1	平均	総平均
就職率の向上	職	5	1	0	0	3.8	3.7
	二	1	2	0	0	3.3	
	介	2	1	0	0	3.7	
資格習得率の向上	職	2	4	0	0	3.3	3.2
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	1	2	0	0	3.3	
退学率の低減	職	0	2	4	0	2.3	2.3
	二	0	0	3	0	2.0	
	介	0	2	1	0	2.7	
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	職	1	5	0	0	3.2	3.0
	二	0	3	0	0	3.0	
	介	0	2	1	0	2.7	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	職	0	6	0	0	3.0	2.8
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	2	1	0	2.7	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント下がっており、前年度を上回った項目が1、3つの項目が下回った。

○今年度は、退学者及び休学者が多かったことから、「退学者の低減」の項目の評価が大きく低下した。これまで以上に日常的な面談や相談活動を通してきめ細やかな対応(組織としての学生への関わり、保護者との連携等)を進めていくことが大切である。

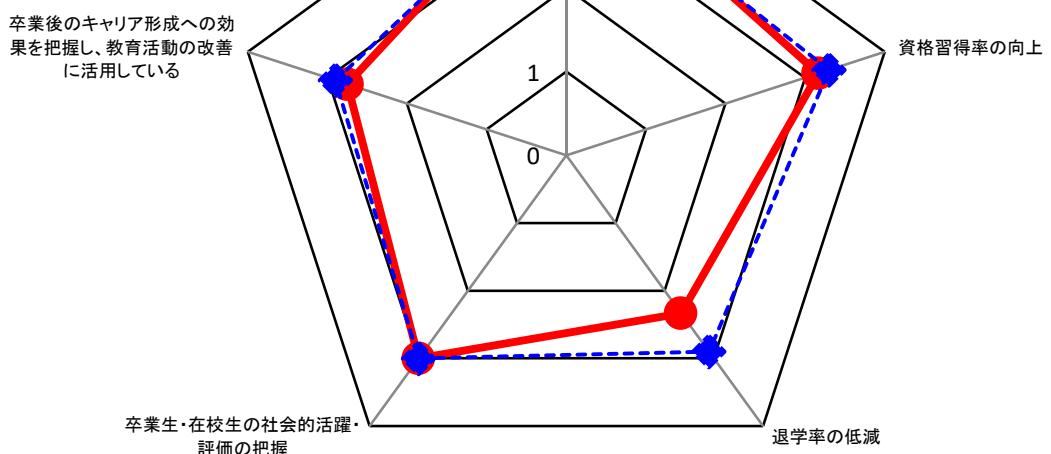
・評価によって表出した課題と改善策

◎本校には、様々な課題を持つ学生の割合が多く、それが退学や欠席・遅刻など多くの問題につながっていると思われる。発展計画(本校の教育方針)に基づき、全教職員が共通理解に立って、学生へのきめ細かい丁寧な関わりを進めていきたい。

◎それぞれの教員はがんばっている。できれば研修出張などあれば…。

◎退学者を減少させる一つの手立てとして、コロナウイルス感染対策をとりながら、早い時期に学生間の交流を図っていきたい。

◎資格を取りたいという自分の強い意志で進学していない学生が増えている現状の中、コロナ禍でどう体験・経験させ、目標を見失わないようにするか、授業の内容含め学科で見直しが必要。



5 学生支援

(1) 支援体制

	4	3	2	1	平均	総平均
進路・就職に関する支援体制の整備	職	1	5	0	0	3.2
	二	1	2	0	0	3.3
	介	0	3	0	0	3.0
学生相談に関する体制の整備	職	0	6	0	0	3.0
	二	0	2	1	0	2.7
	介	0	2	1	0	2.7
学生に対する経済的支援体制の整備	職	2	4	0	0	3.3
	二	1	2	0	0	3.3
	介	0	3	0	0	3.0
学生の健康管理を担う組織体制	職	2	3	1	0	3.2
	二	0	3	0	0	3.0
	介	0	2	1	0	2.7
課外活動に対する支援体制の整備	職	3	2	1	0	3.3
	二	0	1	2	0	2.3
	介	0	3	0	0	3.0
学生の生活環境への支援	職	0	4	2	0	2.7
	二	0	0	3	0	2.0
	介	0	2	1	0	2.7

網掛けは前年度平均

・評価によって表出した課題と改善策

◎フルタイム勤務の専任講師が少ないことから、TA制度を進めるには困難さを伴うことは現実問題としてはあるが、様々な課題を持つ本校の学生に対する支援は必要不可欠であるので、組織としてそれをどのように進めていくのか、知恵を出し合い前向きで建設的な対応を考えていきたい。

◎少人数の学生ならではの「きめ」のこまやかさが随所にみられる。

◎コロナウイルス感染により、ボランティアの依頼が大幅に減った→オンラインでの課外活動など、活動を検討し、こちらから提案する方法もあるのでは?

◎個人や担当が主導するのではなく、お互いが動きやすい組織体制であるべき。

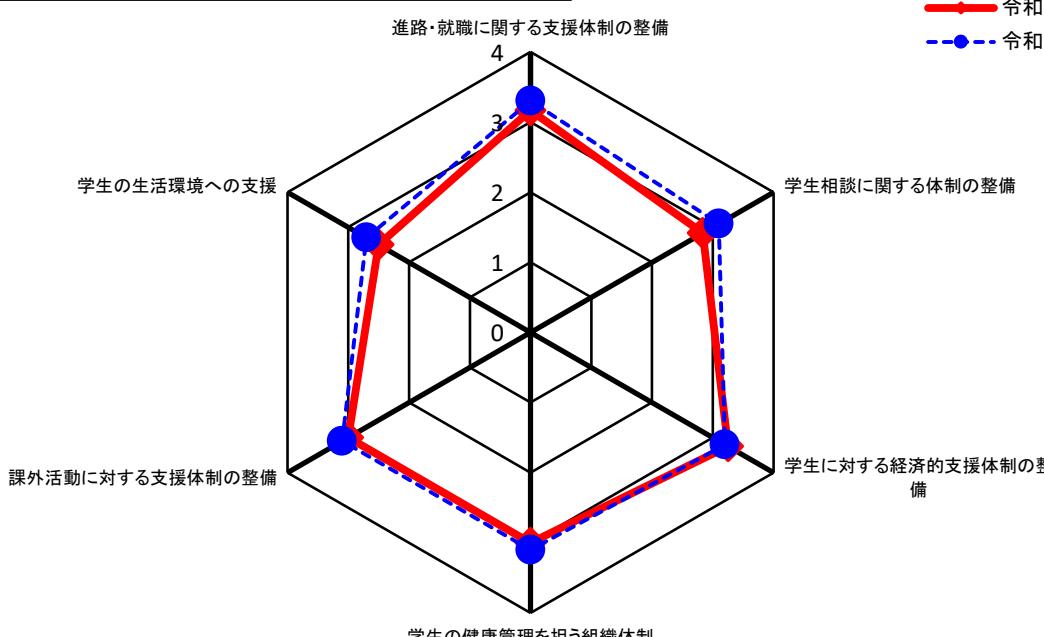
◎学校全体での取り組みとして、学生の身体、メンタル共に支えるサポート体制を整え、情報共有するシステムの確立、職員の意識づけが必要と考える。

○総平均値は0.1ポイント弱下がっており、5つの項目で前年度を下回った。

○「学生の相談に関する体制整備」「学生の生活環境への支援」が低い数値となっている。学生が学業や学校生活など多方面にわたる相談を気軽にできる温かな雰囲気作りを大切にするとともに、教職員から学生への積極的アプローチに取り組みたい。

○小規模校であることを生かし、学生への声かけ、相談、支援等をきめ細かく丁寧に進めていく体制づくりを進めていきたい。

—— 令和3年度
-·-·- 令和2年度



(2)連携体制

		4	3	2	1	平均	総平均
保護者との適切な連携	職	1	4	1	0	3.0	2.8
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	2	1	0	2.7	
卒業生への支援体制	職	1	3	2	0	2.8	2.8
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	3	0	0	3.0	
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	職	1	4	1	0	3.0	2.9
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○すべての項目で前年度を下回り、総平均値は0.1ポイント下がった。

○次年度は、入学式後の保護者懇談会の有効活用だけではなく、高校からの情報(関わり方のアドバイス等)収集や、入学前の保護者・学生との面談に取り組みたい。また、1年間の中で一度は保護者との個別面談を実施するなど、保護者との連携強化に取り組みたい。

・評価によって表出した課題と改善策

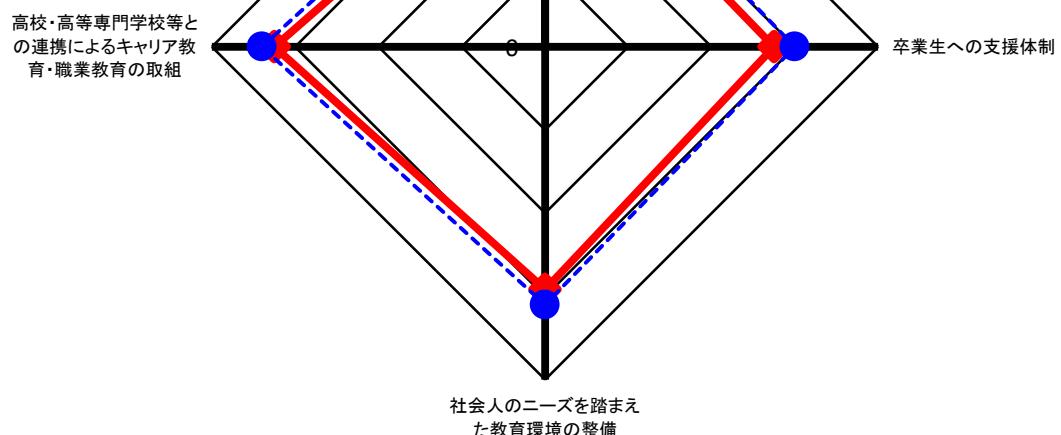
◎高卒生は18~20歳と大人への歩みを進めている段階ではあるが、本校の現状を考えると、保護者との連携は必要不可欠である。「学生が自分の良さや持ち味を発揮できる学校生活にするために」という視点で、次年度は、年度スタート前に高校との連携を図るとともに、保護者・学生との面談にも取り組んでいきたい。さらに、特に課題を持つ学生については、早い段階から保護者への情報提供を行い、保護者面談を実施するなど、保護者との連携強化に取り組みたい。

◎少人数の学生ゆえか、支援体制がみえない。高校生に対する訴えが更に欲しい。

◎元TAが個人的に卒業生を支援→キャリア担当など将来を見据えた担当を置くことも考えられる。

◎保護者との連携は年々難しくなっている

◎学生の現状の理解とともに、保護者との連携に課題があると感じる。



6 教育環境

	4	3	2	1	平均	総平均
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている	職	1	4	1	0	3.0
	二	0	0	2	1	1.7
	介	0	3	0	0	3.0
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している	職	4	2	0	0	3.7
	二	0	3	0	0	3.0
	介	1	2	0	0	3.3
インターンシップ、海外研修等について体制の整備	職	0	1	5	0	2.2
	二	0	2	1	0	2.7
	介	0	1	2	0	2.3
防災に対する体制の整備	職	1	5	0	0	3.2
	二	0	0	2	1	1.7
	介	0	3	0	0	3.0

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.3ポイント上がっており、3項目で前年度を上回り、下回ったのは1項目であった。

○「施設・設備」「実習施設」の項目は大きく向上しており、釧路市の助成をいただきながら計画的に進めている「設備の充実」が影響しているものと思われる。老朽化に伴う、短期、中長期的な計画的改修、改善の必要性が大きな課題として継続している。

○専任教員の人数や勤務形態の関係から、災害時の避難誘導・安全確認等(避難訓練を含め)について、どのように進めていけるのか、今年度は学生の活用を図ったが、今後も検討を続けていかなければならない。

・評価によって表出した課題と改善策

◎老朽化した校舎及び校内の施設・設備の修繕・整備が喫緊の課題となってはいるが、「古いけれど清掃が行き届き、整理整頓がなされている学校」「校舎を大切にする学生」に取り組むことはできるので、学生・教職員が心を一つに素敵な学校づくりに取り組んでいきたい。

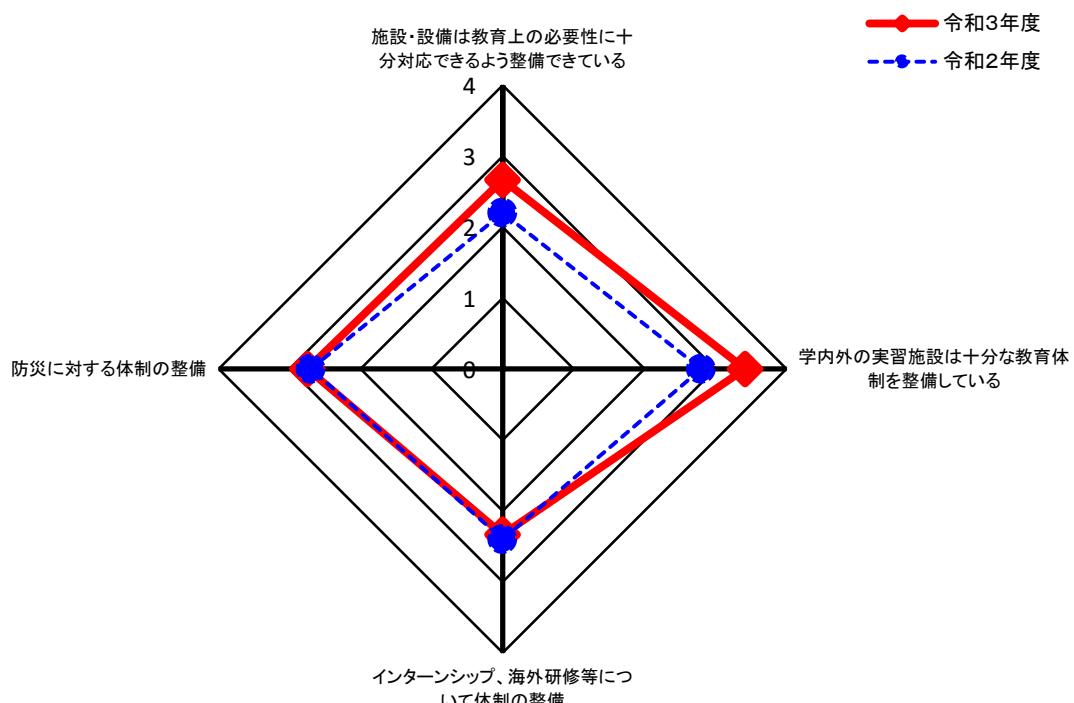
今年度末にエレベータの修理が計画されており、来年度当初からの稼働が可能になる。

避難訓練について、常勤講師数等の状況を鑑み、今年度は避難場所における人員確認システム等に学生を活用する試みを行った。今後もより良い進め方を検討していきたい。

◎施設・インフラの老朽化は否めないが、素早いフォローワー体制が必要と思われる。

◎全てのクラスでオンライン授業ができるよう、アカウントの増設、ネット環境の整備(セキュリティ含)。

◎ネット環境／演習のために必要な教材が不十分。



7 学生の受け入れ募集

	4	3	2	1	平均	総平均
学生の募集活動は適正に行われている	職	3	3	0	0	3.5
	二	1	2	0	0	3.3
	介	1	2	0	0	3.3
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている	職	2	3	1	0	3.2
	二	1	2	0	0	3.3
	介	1	1	1	0	3.0
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている	職	4	2	0	0	3.7
	二	0	3	0	0	3.0
	介	1	2	0	0	3.3
学納金が妥当なものになっている	職	4	2	0	0	3.7
	二	0	3	0	0	3.0
	介	2	1	0	0	3.7

網掛けは前年度平均

○2つの項目で前年度を下回り、上回ったのは1項目であった。総平均値は若干下がったものの、大きな変動ではなかった。

○広報を中心に、ホームページ、広報誌、学校訪問など様々な場や機会を通じて学校の教育活動や魅力発信を積極的に進めており、今後も充実を図っていきたい。(感染症の関係で、学校訪問の機会が大きく減少したのが残念だった)

○学生募集(入学生増)に全教職員にとっての課題であるとの共通認識に立ち、取り組んでいきたい。

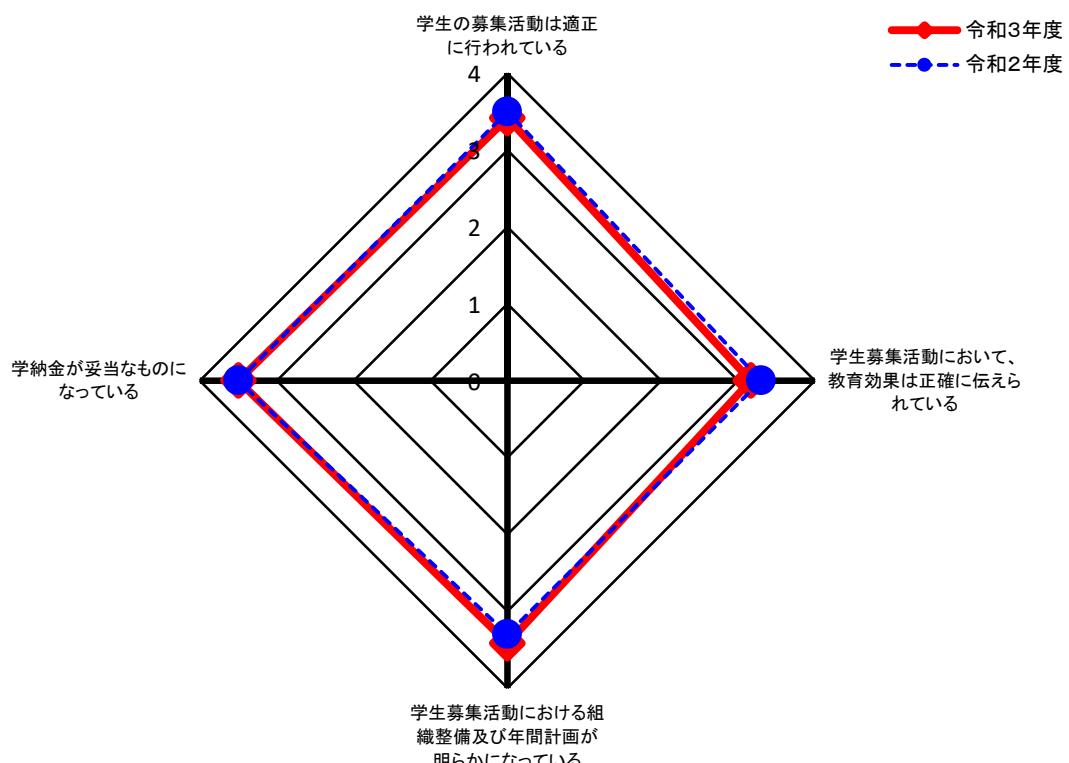
・評価によって表出した課題と改善策

◎コロナ禍の中ではあったが、ホームページ充実(教育活動・学生の頑張りの紹介)、高校訪問への取り組み、ニュースマガジンSenSenの発行(復活)など、広報担当者の努力は高く評価できる。今後の高卒生激減の中、学校生き残りのため、広報担当者だけに任すのではなく、教職員一人一人が改善策や自分にできることを考え、取り組んでいく必要がある。

◎興味関心をもつ学生には、積極的に働きかける必要もある。

◎コロナ禍において重要性を増すSNS広報の充実を図っていく。LINE電話を活用した個別進路相談会など学生募集につながる可能性があり、実践が可能な企画を考えていきたい。

◎今の募集活動はもちろん大切だが、今中学生から進路目標を求められるので、高校ですで決めてしまっている生徒も多い。その為学校、職業の選択肢に早くから知ってもらう必要があると思うので、訪問とまでいかなくても、中学生等に知ってもらう事も今後につながっていくのではと思います。



8 財務

		4	3	2	1	平均	総平均
中長期的に学校の財政基盤は安定している	職	0	4	2	0	2.7	2.6
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	2	1	0	2.7	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている	職	0	3	3	0	2.5	2.5
	二	0	1	2	0	2.3	
	介	0	2	1	0	2.7	
財政について会計監査が適正に行われている	職	4	2	0	0	3.7	3.3
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
財務情報公開の整備はできている	職	3	2	1	0	3.3	3.1
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	

網掛けは前年度平均

○総平均値は0.1ポイント下がった。前年度を上回った項目、下回った項目はそれぞれ2項目だった。

○財政基盤の安定に最も関わっている学生増に向けて、全学あげての取り組みの推進していく必要がある。

・評価によって表出した課題と改善策

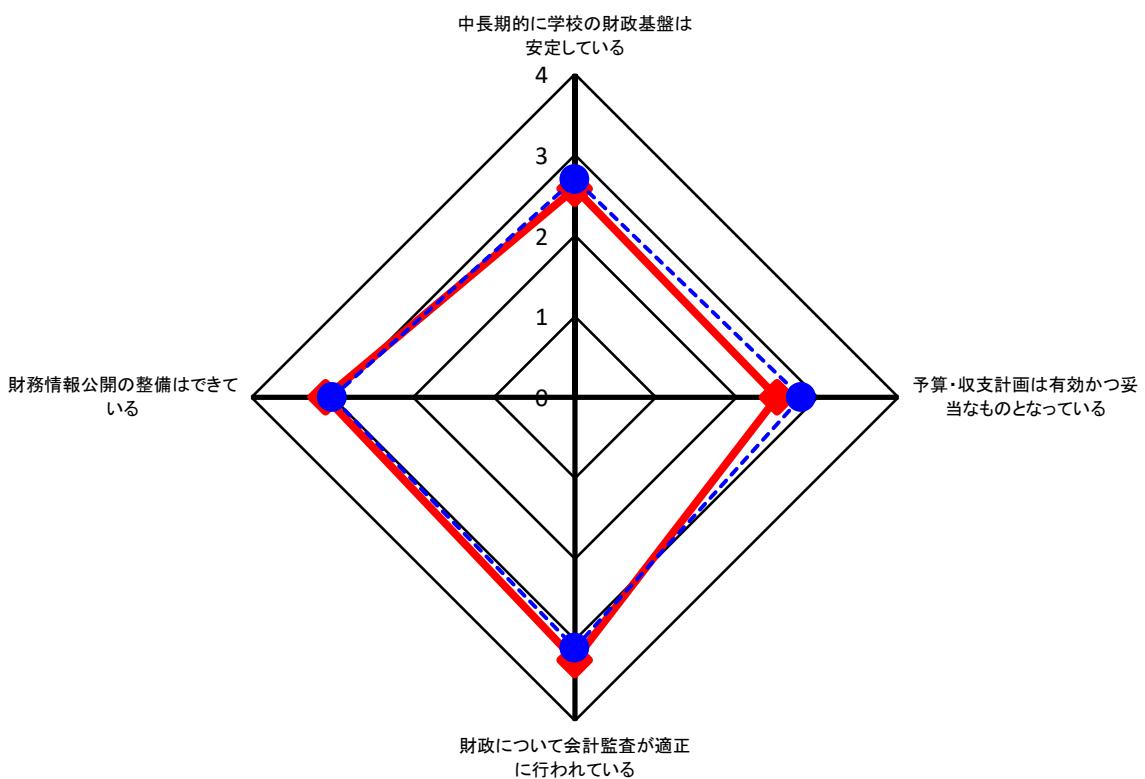
◎学生数が増えることが財政基盤の安定につながることから、前項「7 学生の受け入れ募集」に記載されて取り組みを充実していきたい。

◎乏しい財務が分かっているだけに、大きな望みは提出できない。補助金の積極利用も望まれる。

◎学生数がへる中、学校の財政基盤が不安定→学生募集をいかに効果的に行うか。

◎財政に関しては、ほぼ見えてこない。

● 令和3年度
---● 令和2年度



9 法令の遵守

	4	3	2	1	平均	総平均
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている	職	4	2	0	0	3.3
	二	0	2	1	0	
	介	1	2	0	0	
個人情報に關し、その保護のための対策がとられている	職	3	2	1	0	3.1
	二	0	1	2	0	
	介	1	2	0	0	
自己評価の実施と問題点の改善を行っている	職	3	3	0	0	3.1
	二	0	2	1	0	
	介	0	2	1	0	
自己評価結果の公開	職	4	2	0	0	3.5
	二	1	2	0	0	
	介	1	2	0	0	

網掛けは前年度平均

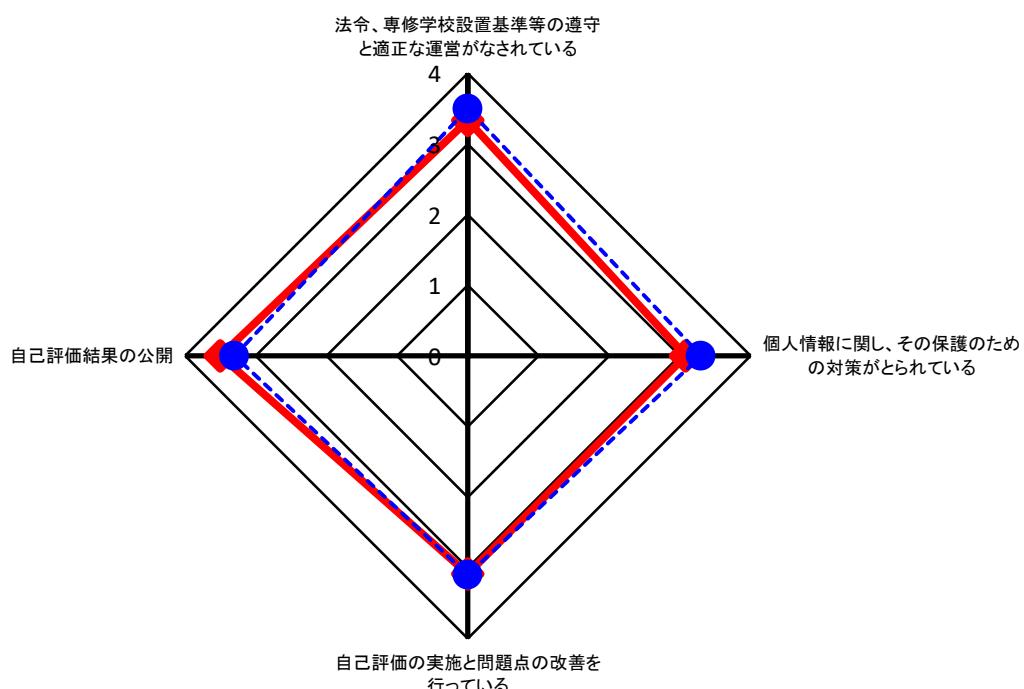
○総平均値は前年度を下回ったが、大きな差ではなかった。
2つの項目で前年度を下回り、上回ったのは1つの項目だった

・評価によって表出した課題と改善策

◎こじんまりしているが、意思の疎通、情報の交換は行われている。常に自己評価と前進がなければ本校は消滅する。

◎個人情報を保護の観点からもセキュリティ・ソフトを学校全体で購入する必要がある。

—— 令和3年度
-●- 令和2年度



10 社会貢献・地域貢献

		4	3	2	1	平均	総平均
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	職	4	2	0	0	3.7	3.2
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	2	1	0	2.7	
学生ボランティア活動を奨励、支援している	職	3	3	0	0	3.5	3.2
	二	0	2	1	0	2.7	
	介	0	3	0	0	3.0	
地域に対する公開講座等を積極的に実施している	職	2	3	1	0	3.2	2.8
	二	1	0	2	0	2.7	
	介	0	1	2	0	2.3	
教育訓練の受託等を積極的に実施している	職	5	1	0	0	3.8	3.7
	二	2	0	1	0	3.3	
	介	2	1	0	0	3.7	

網掛けは前年度平均

○コロナ禍の中での活動の難しさから、総平均値は0.2ポイント下がった。3つの項目が前年度を下回り、1つの項目が上回った。

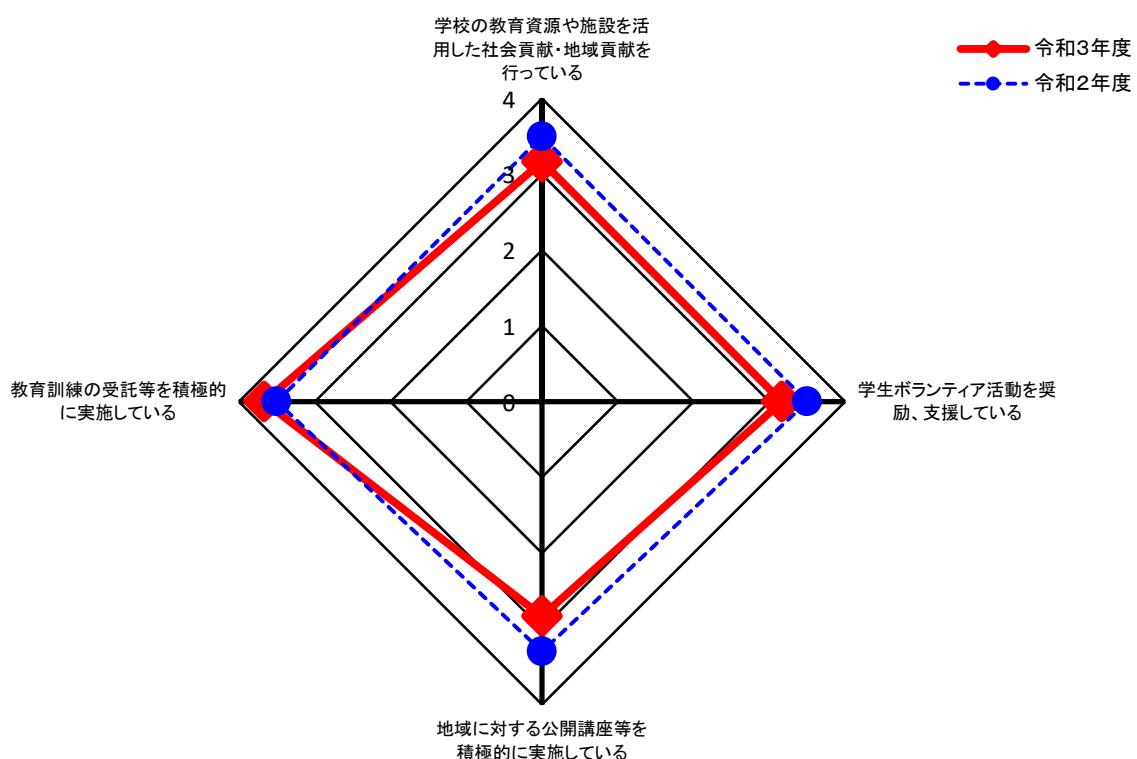
○釧路の自然再発見は、コロナ禍の中で開催回数減となつたが、一定の成果をあげることができた。また、学生会の活動については、今年度は地域貢献等に見える形で取り組むことができなかつたので、次年度への課題としたい。

・評価によって表出した課題と改善策

◎社会貢献・地域貢献については、学校として意識的に取り組りくみ、高い評価をいただいているところである。しかし、コロナ禍の中にあって、十分な取組ができるていない状況である。次年度もどのような取組ができるか、検討を重ねていきたい。

◎自分の分野から考えても、学外の活動は充実しつつある。あの専門学校はこんなこともしているという評価は大切である。

◎コロナウイルス感染により社会貢献・地域貢献の機会がへつた。自治会との清掃活動など、やれることをやっていく。



・他の課題(全体的に)

◎職員がやりがいを感じるために、現状での学生支援体制の整理と、受け入れる学生たちの変化にそった対応、教育体制をとつていけるように、研修を取り入れたり、職員間の風通しよくし、お互いに働きやすく、また学生が学びやすい環境を考えること。

・考えられる改善策

◎①学生増加、②施設インフラの整備、③職員間の意思の疎通

◎コロナ禍の中ではありますが、学生のために、何が必要かを話し合う場づくり、関係性づくりを考えていく。そのために、学生たちの有意義な学生生活を実現するためのアイデアを出し、試していくらと考える。

※自己評価結果について

○学校自己評価も回を重ね7回目の実施となりました。今年度は大項目13のうち9が前年度の平均値を下回りましたが、全項目の平均では、下回った数値は0.1ポイント未満で大きな変動はありませんでした。前年度の平均値を上回ったのは大項目13のうちの2でした。

○前年度比0.2ポイント以上減の大項目は「5 学生支援(2)連携体制」と「10 社会貢献・地域貢献」という結果でした。また、「6 教育環境」については、全項目の中で最も低い数値ではあるのですが前年度を、0.3ポイント上回るという結果でした。

○今年度を振り返って、様々な課題はあるかと思いますが、特に以下に示す点を次年度の課題ととらえています。

- ①ティール運営への対応(充実)
- ②授業評価(公開授業)の継続(非常勤講師についても)
- ③全職員(非常勤講師も含む)対象の研修継続
- ④組織としての学生支援への取組(外部の専門的な力の活用／退学者減への取組)
- ⑤学校の魅力発信・学生募集
- ⑥卒業生の力の活用
- ⑦地域との結びつき(地域貢献・活動)
- ⑧保護者、高校等との連携

○多分収束に向かうことは難しいであろう令和4年度になるかと思いますが、各評価の数値や意見について(今後実施する学校関係者評価の結果もあわせて)教職員全員が真摯に受け止め、次年度はその改善策や方策について考え、実践していくことができればと思います。